

巴城

中島城については時代を隔てて2つ存在したと考えられる。まず、最初の中島城は「巴城（はじょう）」で、「ともえじょう」とも「ほじょう」とも読む。場所は中島町新町井龍で、井龍は古来よりの通称字名が「羽城」、新町は「羽城ノ内奥屋敷玖」であったので整合しているようである。「羽城」は「巴城」から読み方をそのままに、地名の文字だけが変えられたと考えられる。「巴城」は1189（文治5）年に後鳥羽天皇の築建と言われ、1471（文明3）年に落城したという記録になっている。中島頭與（与）五郎の数代が居城したようである。

「六ッ美村史」の『六ッ美村大字別地字名調』の記述には、『大字中島字井龍』に羽城が含まれている」とある。

- ・悠紀齋田記念の中島案内の「巴城」の項には

「字新町井龍にあり畑となり宅地となり巴（は）城の名のみ存す。後鳥羽天皇文治五年己酉年築建し文明三年辛卯年落城した。中島内匠頭（たくみのかみ）与五郎数代の居城なり。城主の母君他に有り落城を嘆かせられて。武士の身はならわせと思うとも、みる目やられぬ古郷をし。

1514（永正11）年2月崇福寺にて葬禮した。中島氏領域近村二万石余」とある。

- ・悠紀齋田記念の中島案内の「区長」の項には

「区長事務所は新町巴城に在り、区長二人は早川治三郎および石川源佐工門氏と言う」とある。

- ・「六ッ美風土記」には

「現在の中島町の中央に「巴城」とよばれる小字名があるが（後屋敷にある由良城ともいわれる）ここが中島城のあとである。」とある。

- ・「六ッ美村史」には

「大字中島字巴城にあり、目下田畑となりて其の形跡更になし」とある。

本項は以下の資料を引用している。

[六ッ美村誌]

編者 六ッ美村是調査会
発行 六ッ美村是調査会
発行日 1926（大正15）年12月1日
発行所 日新堂書店
印刷所 活版印刷所

[六ッ美風土記]

編者 岡崎市立六ッ美中部小学校父母教師会
監修 太田 満也
発行 岡崎市立六ッ美中部小学校父母教師会
発行日 1975（昭和50）年3月24日
印刷所 あいち印刷株式会社

[悠紀齋田中島案内]

編集人 牧 善丸、早川 治三郎
発行人 牧 善丸
印刷者 中村 角馬
発行日 1915（大正4）年6月5日
発売元 牧 つね、早川 芳太郎

